保険・証券・その他金融

１．評価対象企業（9 社）

【損保】（3 社）　SOMPO ホールディングス、MS＆AD インシュアランスグループホールディングス、東京海上ホールディングス
【生保】（3 社）　かんぽ生命保険、第一生命ホールディングス、T＆D ホールディングス
【証券】（2 社）　大和証券グループ本社、野村ホールディングス
【その他金融】（1 社）　オリックス

（証券コード協議会銘柄コード順）

２．評価方法等

（1）　評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目（注）数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	**経営陣の IR 姿勢等**	4	26
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	**説明会等**	6	28
③フェア･ディスクロージャー	**フェア･ディスクロージャー**	2	5
④ESG に関連する情報の開示	**ESG 関連**	4	34
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	**自主的情報開示**	1	7
計		17	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

（2）　評価実施アナリストは 20 名（所属先 20 社）である。（氏名等は後掲）

３．評価結果

（1）　**総括**（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

①　本年度は、一部の項目内容や配点を見直したため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 73.2 点（昨年度 71.4 点）、総合評価点の標準偏差は、6.0 点（昨年度 6.8 点）であった。

②　業態別の総合評価平均点を見ると、損保（3 社）が 77.0 点（昨年度 76.5 点）、生保（3 社）が 71.6 点（昨年度 68.9 点）、証券（2 社）が 68.8 点（昨年度 66.7 点）、その他金融（1 社）は 75.4 点（昨年度 72.8 点）となった。各業態共に昨年度に比べ、改善した。

③　5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 74%（昨年度 70%）、**説明会等**が 73%（昨年度同率）、**フェア･ディスクロージャー**が 82%（昨年度 79%）、**ESG 関連**が 74%（昨年度 72%）、**自主的情報開示**が 63%（昨年度 59%）となった。

④　評価項目について見ると、全 17 項目中、次の 3 項目（**経営陣の IR 姿勢等**の中の 2 項目（(a) (b)）、**フェア･ディスクロージャー**の中の 1 項目(c)）が 80%以上の平均得点率となり、高い水準となった。

(a)「経営陣が企業価値および株価への意識を高め、決算説明会やミーティング等において経営方針を十分に説明するなど IR に積極的に関与していますか。経営陣が積極的に市場と十分にコミュニケーションをとる意欲を持っていますか」（平均得点率 82%〔昨年度 79%〕）（得点率（評価点／配点〈以下省略〉：60%

台１社・70%台２社・80%台５社・90%台１社）

(b)「IR 部門に十分な情報が集積されており、IR 担当者と有益なディスカッションができますか。IR 部門が投資家の意見を経営陣にフィードバックする機能を果たしていますか」（平均得点率 80%〔昨年度 79%〕）（得点率：60%台１社・70%台２社・80%台５社・90%台１社）

(c)「ウェブサイト等を活用した有用かつ、速やかな情報提供（説明会等の開催、決算説明会資料・質疑応答・動画配信、過去の長期財務データ）を日英両言語で行っていますか」（平均得点率 90%〔昨年度 85%〕）（得点率：70%台１社・90%台８社）

⑤　一方、次の２項目（**経営陣の IR 姿勢等**の中の１項目(a)、**説明会等**の中の１項目(b)）は、平均得点率が 50%台となり、低水準であった。

(a)「社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか」（平均得点率 57%〔昨年度 48%〕）（得点率：40%台２社・50%台３社・60%台３社・70%台１社）

(b)「決算発表の迅速化に積極的に取り組んでいますか」（平均得点率 55%〔昨年度 57%〕）（得点率：30%台４社・40%台１社・50%台１社・70%台１社・80%台１社・90%台１社）

(2)　上位３企業の評価概要

第１位　東京海上ホールディングス　（ディスクロージャー優良企業（2 回連続 7 回目）、総合評価点 81.3 点〔昨年度比－0.4 点〕）

①　同社は、**経営陣の IR 姿勢等**（得点率〈以下省略〉86%）、**ESG 関連**（80%）、**自主的情報開示**（76%）が第１位、**説明会等**（80%）、**フェア･ディスクロージャー**（86%）が同得点第１位となった。

②　**経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」、「IR 部門の機能」および「IR の基本スタンス」の３項目が最も高い評価となった。これらに関連して、経営陣、IR 部門共に積極的な情報開示・発信の姿勢が見られ、株価に対する意識も高いとの声が寄せられた。また、事後的ではあったが CRE ローン関連資料を充実させたことを評価する声もあった。「社外取締役との対話」は第３位となった。これに関連して、社外取締役との対話の機会を望む声があった。

③　**説明会等**においては、6 項目のうち５項目が最も高い評価（同得点第１位を含む。）となった。これらに関連して、説明会や資料の内容が充実しているとの声が寄せられたほか、IR 担当者が詳細かつ丁寧に対応しているとの声もあった。なお、説明資料は、当社の強みのアピールは優れているが、課題やリスク要因に対する説明が不十分との声があった。「決算発表日、発表時間」は同得点第８位であった。「決算発表日、発表時間」は同得点第８位（同率最下位）であった。これに関連して、開示日、開示時間が遅いとの声があった。

④　**フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」が同得点第１位となり、「リモートツールによる情報提供」は、トップと僅差の同得点第３位となった。これらに関連して、説明会の質疑応答を日・英両言語で開示している点や、海外での説明会についてのフィードバックを評価する声があった。

⑤　**ESG 関連**においては、「目標とする経営指標、資本政策、株主還元策の開示」が最も高い評価となった。また、「E（環境）・S（人的資本を含む社会）に関する情報開示」（2 項目計）も第 2 位となった。これに関連して、気候変動問題を、本業である保険引受・支払いと関連して説明している点を評価する声が寄せられた。「コーポレートガバナンス」は第４位となった。これに関連して、政策保有株式売却後の長期目標の説明を望む声があった。

⑥　**自主的情報開示**の「決算説明会、IR 部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門、ESG 関連説明会等を積極的に実施していること」は最も高い評価となった。充実していたイベントとして、Tokio Marine Insights のほか、海外事業の説明会を挙げる声が寄せられた。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第２位　第一生命ホールディングス　（総合評価点 77.2 点〔昨年度比＋2.4 点〕、昨年度第３位）

① 同社は、**経営陣の IR 姿勢等**（79%）、**ESG 関連**（77%）が第２位、**説明会等**が第３位（77%）、**自主的情報開示**が同得点第４位（69%）、**フェア･ディスクロージャー**が同得点第６位（82%）となった。昨年度に比べ、5 分野全てにおいて得点率が改善した。

② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」、「社外取締役との対話」および「IR の基本スタンス」の３項目が第２位（同得点第２位を含む。）となった。「IR 部門の機能」も同得点第３位となり、評価された。これらに関連して、経営トップの株価に対する意識が高いとの声や、経営陣、IR 部門共に積極的な情報開示・発信の姿勢が見られるとの声が寄せられた。また、社外取締役パネルディスカッションを評価する声もあった。なお、M&A 活動の積極化について、その狙いなどの十分な説明を望む声があった。

③ **説明会等**においては、「説明会、インタビューにおける開示」（4 項目計）および「決算資料・統合報告書等における開示」が共に第２位となった。これらに関連して、説明会や資料の内容が充実しているとの声が寄せられたほか、IR 担当者が詳細かつ丁寧に対応しているとの声もあった。なお、ALM の実態開示を評価する一方、M&A 先の業績動向の開示の改善を望む声があった。「決算発表日、発表時間」は第５位であった。

④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「リモートツールによる情報提供」が同得点第３位となり、トップと僅差であった。これに関連して、説明会の質疑応答を日・英両言語で開示している点を評価する声があった。「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」は同得点第６位であった。

⑤ **ESG 関連**においては、「S（人的資本を含む社会）に関する項目」が同得点第１位（昨年度第７位）となり、「目標とする経営指標、資本政策、株主還元策の開示」も第２位（昨年度同得点第３位）となった。「コーポレートガバナンス」は第５位、「E（環境）に関する項目」は第６位であった。

⑥ **自主的情報開示**の「決算説明会、IR 部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門、ESG 関連説明会等を積極的に実施していること」は同得点第４位となった。充実していたイベントとして、海外子会社の説明会を挙げる声があった。

第３位　T&D ホールディングス　（総合評価点 76.3 点〔昨年度比＋3.1 点〕、昨年度第４位）

① 同社は、**自主的情報開示**が同得点第２位（73%）、**ESG 関連**が第３位（76%）、**経営陣の IR 姿勢等**（77%）、**説明会等**（75%）が第４位、**フェア･ディスクロージャー**が同得点第６位（82%）となった。昨年度に比べ、5 分野全てにおいて得点率が改善した。

② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」が同得点第２位となり、昨年度に比べて得点率が改善した。「IR の基本スタンス」は第３位であった。これらに関連して、経営トップが積極的に IR 活動を実施しているとの声が寄せられたほか、弱点や潜在的なリスクも積極的に開示しているとの声があった。また、「社外取締役との対話」が第４位となった。「IR 部門の機能」は第６位であった。これに関連して、IR 部門とトップマネジメントとの一層の連携を望む声があった。

③ **説明会等**においては、「決算資料・統合報告書等における開示」が同得点第 4 位となった。また、「説明会、インタビューにおける開示」（4 項目計）が第５位となった。これらに関連して、開示が体系的で情報量も多いとの声のほか、IR 担当者が詳細かつ丁寧に対応しているとの声が寄せられた。なお、リスク情報の開示を評価する一方、営業成績の開示の改善を望む声あった。「決算発表日、発表時間」は第４位であった。

④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「リモートツールによる情報提供」が同得点第 3 位となり、トップと僅差であった。これに関連して、説明会の質疑応答を日・英両言語で開示している点を評価する声があった。「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」は同得点第６位であった。

⑤ **ESG 関連**においては、「S（人的資本を含む社会）に関する項目」が同得点第１位となり、「コーポレートガバナンス」も第３位となった。「目標とする経営指標、資本政策、株主還元策の開示」は第４位となった。なお、成長戦略について一層の説明を求める声があった。「E（環境）に関する情報開示」は同得点第 7 位であった。

⑥ **自主的情報開示**の「決算説明会、IR 部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門、ESG 関連説明会等を積極的に実施していること」は同得点第２位（昨年度第３位）となった。充実していたイベントとして、IR　DAY「Fortitude 社説明会」を挙げる声が多く寄せられた。

以　上

2025年度　ディスクロージャー評価比較総括表　（保険・証券・その他金融）

（単位：点）

順位	評価項目 / 評価対象企業	総合評価（100点）	1．経営陣のＩＲ姿勢、ＩＲ部門の機能、ＩＲの基本スタンス 評価項目4（配点 26点）		2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目6（配点 28点）		3．フェア・ディスクロージャー 評価項目2（配点 5点）		4．ＥＳＧに関連する情報の開示 評価項目4（配点 34点）		5．各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目1（配点 7点）		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	8766　東京海上ホールディングス	81.3	22.3	1	22.3	1	4.3	1	27.1	1	5.3	1	1
2	8750　第一生命ホールディングス	77.2	20.6	2	21.6	3	4.1	6	26.1	2	4.8	4	3
3	8795　T＆Dホールディングス	76.3	20.1	4	21.1	4	4.1	6	25.9	3	5.1	2	4
4	8630　SOMPOホールディングス	75.7	20.3	3	20.3	7	4.3	1	25.7	5	5.1	2	6
5	8591　オリックス	75.4	19.4	5	22.3	1	4.3	1	25.8	4	3.6	7	5
6	8725　MS＆ADインシュアランスグループホールディングス	74.1	19.2	6	20.6	5	4.2	5	25.3	6	4.8	4	2
7	8601　大和証券グループ本社	70.2	17.5	7	20.5	6	4.0	8	24.7	7	3.5	8	7
8	8604　野村ホールディングス	67.4	17.2	8	19.2	8	4.3	1	22.3	8	4.4	6	8
9	7181　かんぽ生命保険	61.3	16.0	9	16.3	9	3.5	9	22.2	9	3.3	9	9
	評価対象企業評価平均点	73.20	19.18		20.47		4.12		25.00		4.43		

2025年度の具体的評価項目および配点（保険・証券・その他金融）

【評価期間：2024年7月～2025年6月】

1．経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（26点）	**配点**
(1)経営陣のIR姿勢	
・経営陣が企業価値および株価への意識を高め、決算説明会やミーティング等において経営方針を十分に説明するなどIRに積極的に関与していますか。経営陣が積極的に市場と十分にコミュニケーションをとる意欲を持っていますか。	**10**
(2)社外取締役との対話	
・社外取締役と株式市場の間で理解が深まるような取組みをしていますか。	**5**
(3)IR部門の機能	
・IR部門に十分な情報が集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか。IR部門が投資家の意見を経営陣にフィードバックする機能を果たしていますか。	**5**
(4)IRの基本スタンス	
・会社にとって都合の悪い情報や自社の弱点や潜在的なリスクについても、積極的に開示する姿勢が見られますか。例えば、不祥事、気候変動、資産と負債に付随するリスクなど。	**6**
2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示（28点）	**配点**
(1)説明会、インタビューにおける開示	
①部門別･地域別等、財務分析に必要なデータは、一貫して十分に開示・説明されていますか。	**5**
②事業または財務上のリスク情報、金融規制関連、社内リスク管理上のリスク量等（自主的開示を含む）開示が十分になされていますか。	**5**
③主な連結子会社、関連会社の損益、財務および資本関係等の状況は十分に説明されていますか（合併・提携・買収による業績貢献・進捗状況を含む）。	**4**
④決算説明会における会社側の説明（質疑応答含む）、資料は十分かつ効率的な運営に配慮したものになっていますか。	**5**
(2)決算資料・統合報告書等における開示	
・業界のベスト・プラクティスを反映した必要十分な内容ですか。	**5**
(3)決算発表日、発表時間	
・決算発表の迅速化に積極的に取り組んでいますか。	**4**
3．フェア・ディスクロージャー（5点）	**配点**
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・投資家にとって重要と判断される事項の開示は、積極的に行われ、遅滞なく、十分なものですか。短期、中長期での業績見通し上有益な情報（月次開示を含む）、ガイダンスをプレスリリース、ウェブサイト上などで広く開示していますか。	**3**
(2)リモートツールによる情報提供	
・ウェブサイト等を活用した有用かつ、速やかな情報提供（説明会の開催、決算説明会資料・質疑応答・動画配信、過去の長期財務データ）を日英両言語で行っていますか。	**2**
4．ESGに関連する情報の開示（34点）	**配点**
(1)コーポレートガバナンス	
・実効性のあるコーポレートガバナンスを確保するための取組みを公表し、市場関係者の理解を得るように努めていますか。例えば、役員報酬の算定方式、政策保有株式に係る情報、社外取締役の選定プロセス、腐敗防止への取組み。	**12**
(2)目標とする経営指標、資本政策、株主還元策の開示	
・中長期経営計画、資本政策（ROE、資本コスト、キャピタルアロケーション等）、株主還元方針を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が十分説明されていますか。	**12**
(3)Ｅ（環境）・Ｓ（人的資本を含む社会）に関する情報開示	
①Ｅ（環境）に関する適切な目標設定、PDCAサイクルの実践、アップデートがなされていますか。	**5**
②Ｓ（人的資本を含む社会）に関する経営戦略にリンクした目標設定、PDCAサイクルの実践、アップデートがなされていますか。	**5**
5．各業種の状況に即した自主的な情報開示（7点）	**配点**
・決算説明会、IR部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門、ESG関連説明会等を積極的に実施していますか。 ［過去1年間を目安に評価］【充実していた説明会等名をコメント欄に記入して下さい】	**7**

保険・証券・その他金融専門部会委員

部　会　長	村木　正雄	SMBC 日興証券
部会長代理	丹羽　孝一	ｼﾃｨｸﾞﾙｰﾌﾟ証券
	斎藤　佳奈	ｺﾞｰﾙﾄﾞﾏﾝ・ｻｯｸｽ・ｱｾｯﾄ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	佐藤　耕喜	JP ﾓﾙｶﾞﾝ証券
	峯嶋　利隆	ﾆｯｾｲｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	渡辺　和樹	大和証券

評価実施アナリスト（20 名）

幾代　孝四郎	大和ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	竹村　淳郎	ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ MUFG 証券
板倉　充知	SOMPO ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	田村　晋一	岡三証券
今井　雅	ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ One	戸田　浩司	りそなｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
大塚　亘	SBI 証券	丹羽　孝一	ｼﾃｨｸﾞﾙｰﾌﾟ証券
荻野　晃	丸三証券	花岡　宏行	JP ﾓﾙｶﾞﾝ・ｱｾｯﾄ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
斎藤　佳奈	ｺﾞｰﾙﾄﾞﾏﾝ・ｻｯｸｽ・ｱｾｯﾄ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	摩嶋　竜生	東海東京ｲﾝﾃﾘｼﾞｪﾝｽ・ﾗﾎﾞ
坂巻　成彦	みずほ証券	峯嶋　利隆	ﾆｯｾｲｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
佐々木　太	野村證券	村木　正雄	SMBC 日興証券
佐藤　耕喜	JP ﾓﾙｶﾞﾝ証券	籔谷　和子	ｼｭﾛｰﾀﾞｰ・ｲﾝﾍﾞｽﾄﾒﾝﾄ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
佐野　滉介	第一生命保険	渡辺　和樹	大和証券

（注）　上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。